

**令和元年度第2回  
新ごみ処理施設の処理方式等検討委員会  
議事概要**

- 1 開催日時：令和元年10月9日（水） 15時00分～17時00分
- 2 開催場所：泉佐野市田尻町清掃施設組合 第一事業所 3階会議室
- 3 出席者  
委員：水谷委員（委員長）、伊與田委員（副委員長）、蓑田委員、土原委員  
事務局：組合（4名）、泉佐野市（3名）、田尻町（2名）、熊取町（2名）、  
建設技術研究所（3名）
- 4 次 第
  - （1）開 会
  - （2）委員紹介
  - （3）報告及び協議事項
    - 1）スケジュールの確認  
資料1：計画策定スケジュールと委員会開催予定
    - 2）施設整備に係る基本的事項について  
資料2－1：施設規模検討結果  
資料2－2：同算出根拠資料
    - 3）公害防止基準について  
資料3：公害防止基準の設定
    - 4）アンケート結果（速報）について  
資料4－1：アンケート結果（第1報）まとめ  
資料4－2：アンケート結果（第1報）各社回答一覧  
資料4－3：アンケート依頼資料
    - 5）処理方式選定の考え方について  
資料5：処理方式選定の考え方（案）
    - 6）その他補足資料  
資料6：第1回検討委員会議事概要
  - （4）その他
  - （5）閉 会

## 5 議事概要

### (1) 開 会

### (2) 委員紹介

### (3) 報告及び協議事項

#### 1) スケジュールの確認について

- ・事務局より計画策定スケジュールと委員会開催予定について確認を行った。次回委員会は2月とし、回数を全4回から3回へとすることについて確認した。

#### 2) 施設整備に係る基本的事項について

- ・第1回委員会資料からの更新点について説明を行った。熊取町の人口を見直した点、原単位について再度見直しを行った点について確認した。
- ・施設規模は災害廃棄物に対する余力として10%を見込むことを確認した。
- ・焼却施設の規模として240t/日、リサイクル施設規模として30t/日、ストックヤード460m<sup>2</sup>とすることを確認した。

#### 3) 公害防止基準について

- ・各公害防止基準項目に関する説明と、既存施設と近隣自治体の公害防止基準について事例を紹介した。そのうえで、新施設における公害防止基準（案）を提示した。

#### 4) アンケート結果（速報）について

- ・大手主要メーカー8社を対象としたアンケート実施状況に関する回答速報を説明した。

#### 5) 処理方式選定の考え方について

- ・4) アンケート結果（速報）を参考とし、処理方式の考え方について説明を行った。ごみ質、施設供用年度、入札参加状況の予想、ハイブリッド方式の稼働実績、環境影響評価の5つの観点より、現時点ではストーカ方式を第一候補として選定し、引き続きハイブリッド方式も含めて技術動向を調査することを説明した。

### (4) 主な意見等

#### 1) スケジュールについて

- ・（事務局）資料1について説明。
- ・（委員）第二回アンケートは十分な時間をとって行うこと。配置計画についても資料で提出してもらいたい。
- ・（委員）メタン発酵で提案しているメーカーについて、メタン発酵をやめた場合の配置計画についてもヒアリングすること。
- ・（委員）ピット容量についてもメーカーヒアリングし、提出すること。

## 2) 施設整備に係る基本的事項について

- ・(事務局) 資料2-1、2-2について説明。
- ・(委員) 原単位は増える予測となっているが、総排出量は減っている。ごみ減少となる要因は人口減少によるものか。
- (事務局) 人口減少によるものである。
- ・(委員) 事業系ごみの予測は産業の動向を見据えた予測となっているか。
- (事務局) ごみ量の推移から統計処理による予測を行っている。産業の動向についての予測は行っていない。
- ・(委員) 破碎選別後の可燃残さ発生量はどのように算出しているか。
- (事務局) 破碎施設に搬入されるごみから実績の残さ発生割合を乗じることで算出している。
- ・(委員) 大阪市においては事業系ごみが減少する傾向であったが昨年度から増加している。原因については分析中であるが、観光客等が関係していると考えられる。ごみ処理の政策的には事業系ごみを削減すべきであるが、施設規模の算定にあたっては規模が不足しないよう検討すること。
- ・(委員) 泉佐野市における事業所数に推移はどのようになっているのか。
- (事務局) りんくうタウンにおけるホテル数は増えている。
- (委員) 経済活動の予測については難しいと考える。事業系ごみについても人口による原単位を試算することや、事業形態別の排出量等を踏まえて検証を行うこと。
- ・(委員) 施設規模の算定方法については、了承した。行政側でも事業系ごみ等について削減ができるよう留意すること。

## 3) 公害防止基準(案)について

- ・(事務局) 資料3について説明。
- ・(委員) 計画基準値でプラントが設計されるので実際の運転ではさらに低い値で推移することが考えられることから、妥当な設定であるといえる。
- ・(委員) 近隣自治体の動向等も勘案して決定されているため今回の設定で十分であると考える。今後建設される近隣の新施設についても情報収集を随時行うこと。
- ・(委員) 泉佐野市の山手側では下水道整備があまり進んでいないが候補地においてはどのような状況か。
- (事務局) 下水道本管が候補地の近くまで整備されている。排水について、下水道放流を行う場合は、この本管と接続することとなる。

#### 4) アンケート結果（速報）について

- ・（事務局）資料4-1、4-2、4-3について説明。
- ・（委員）リサイクル施設の概算金額が大きく異なるため、第二回アンケート時に処理フローをヒアリングすること。処理フローによる金額の差が表れていると考えられる。
- ・（委員）第二回アンケート時に詳細な配置図等を提示すること。

#### 5) 処理方式選定の考え方について

- ・（事務局）資料5について説明。追加内容として今年度の10月から3月まで乾ベース及び湿ベースで毎月測定することを説明。
- ・（委員）厨芥類が少ないため、メタン発酵設備を導入した場合は運転・維持管理が難しいと考える。事務局提案内容の焼却方式（ストーカ式）を第一候補として今後の検討を進める方向で了解した。

#### （5）その他

- ・（事務局）次回の新ごみ処理施設の処理方式等検討委員会の開催は、2月上旬から下旬に同会場で行う予定とし、再度案内する。
  - ・（事務局）次回委員会において、今回同様アンケート調査結果を報告する予定とし、プラントメーカーの技術的な提案を伴った内容を扱うため、非公開とすることでよいか。また、プラント名等を非公開として、委員会資料を公開することでよいか。
- （委員）委員会は非公開とすることを承認する。また、資料の公開について了承した。

#### （6）閉 会

以上